



五  
下  
年

二  
口  
ガ  
不

TOUHOU PROJECT  
FAN BOOK

PRESENTED BY  
**Yakumi-Sarai**

2015.12.30



この漫画は  
東方Projectの  
二次創作作品です

私の剣は

主の為に在ると  
思っていた



主の敵を

切って

斬って

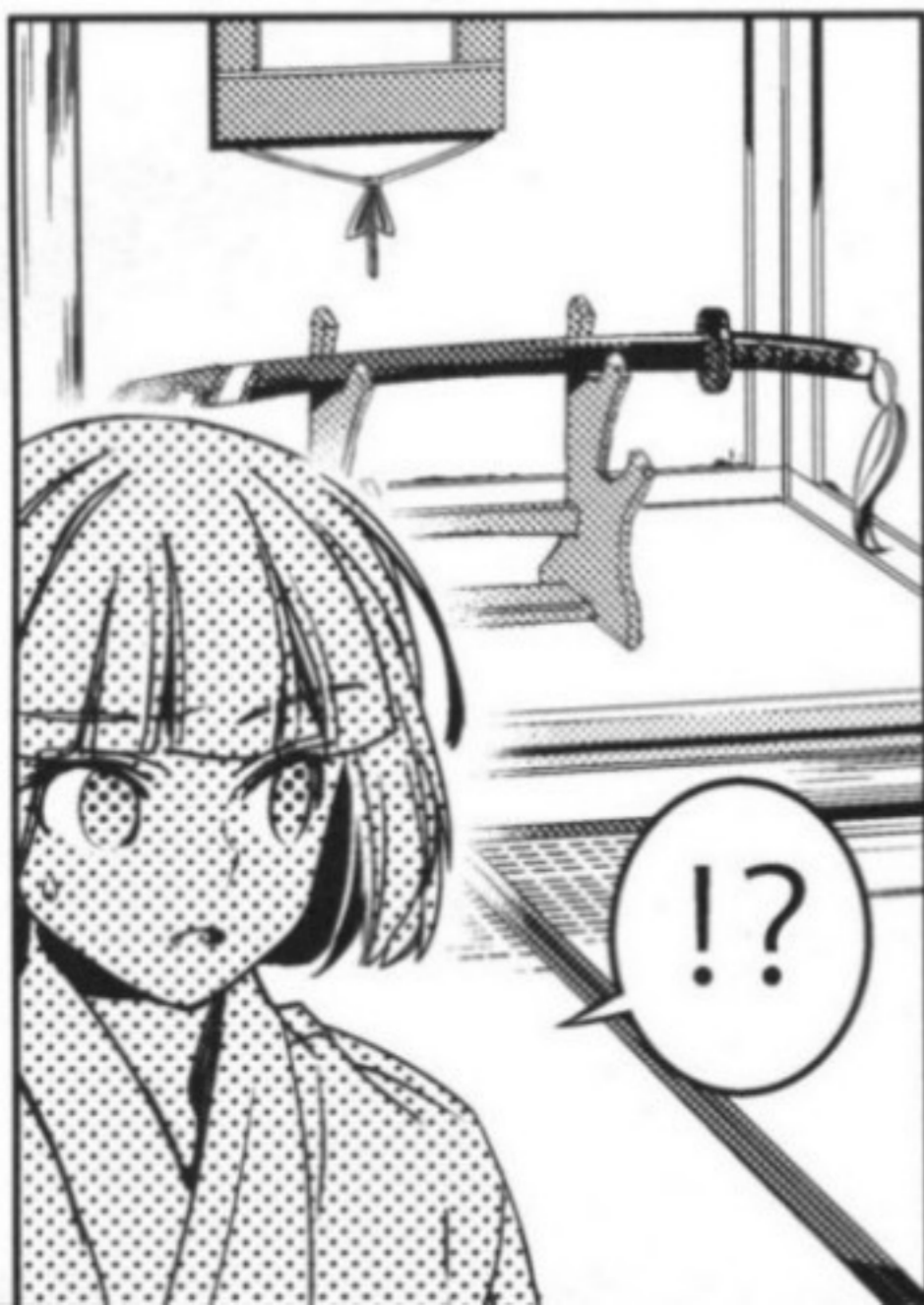
斬り伏せる為に

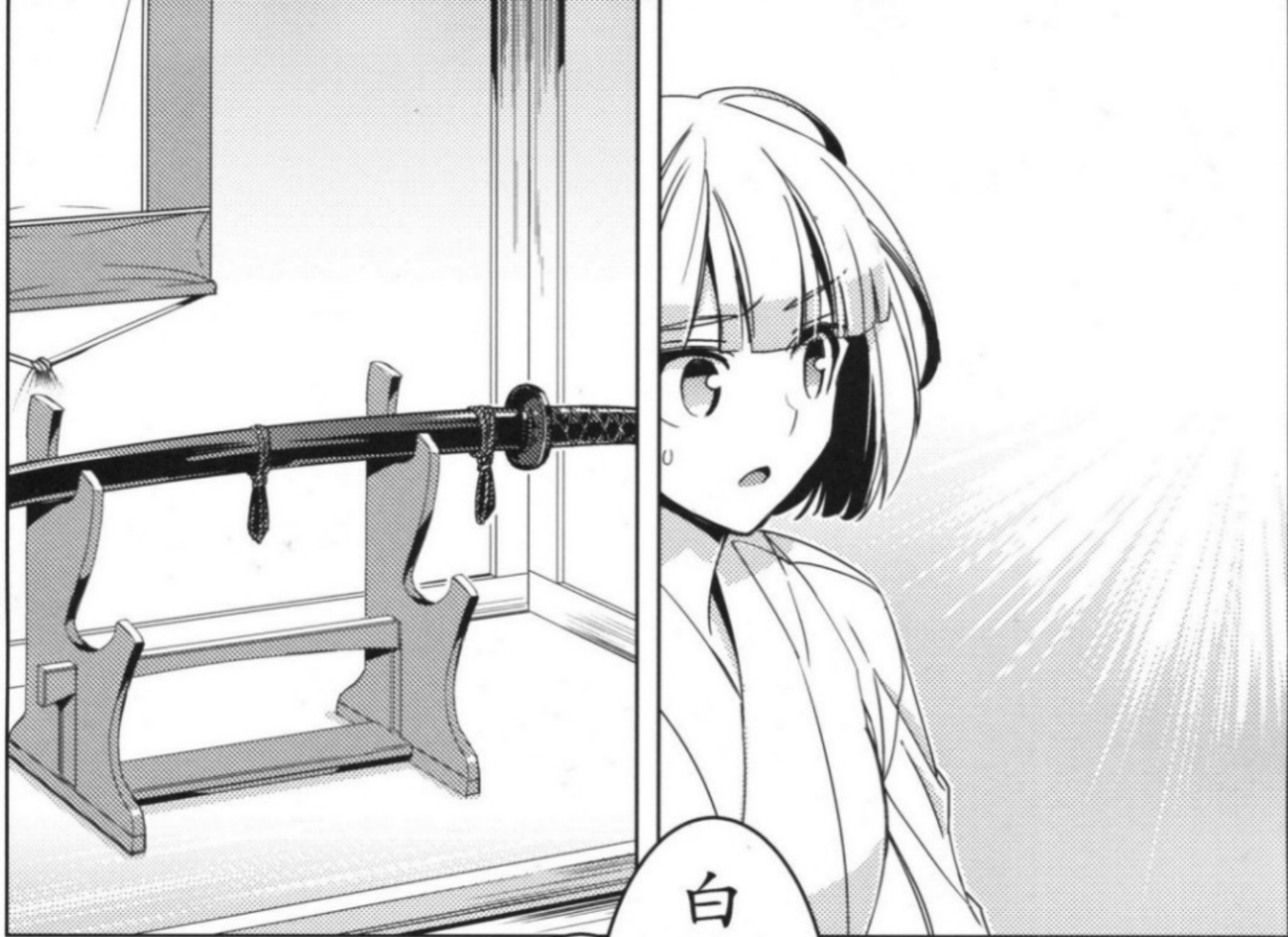




でも…







白楼剣と……

半霊は……？

TOUHOU PROJECT  
FAN BOOK

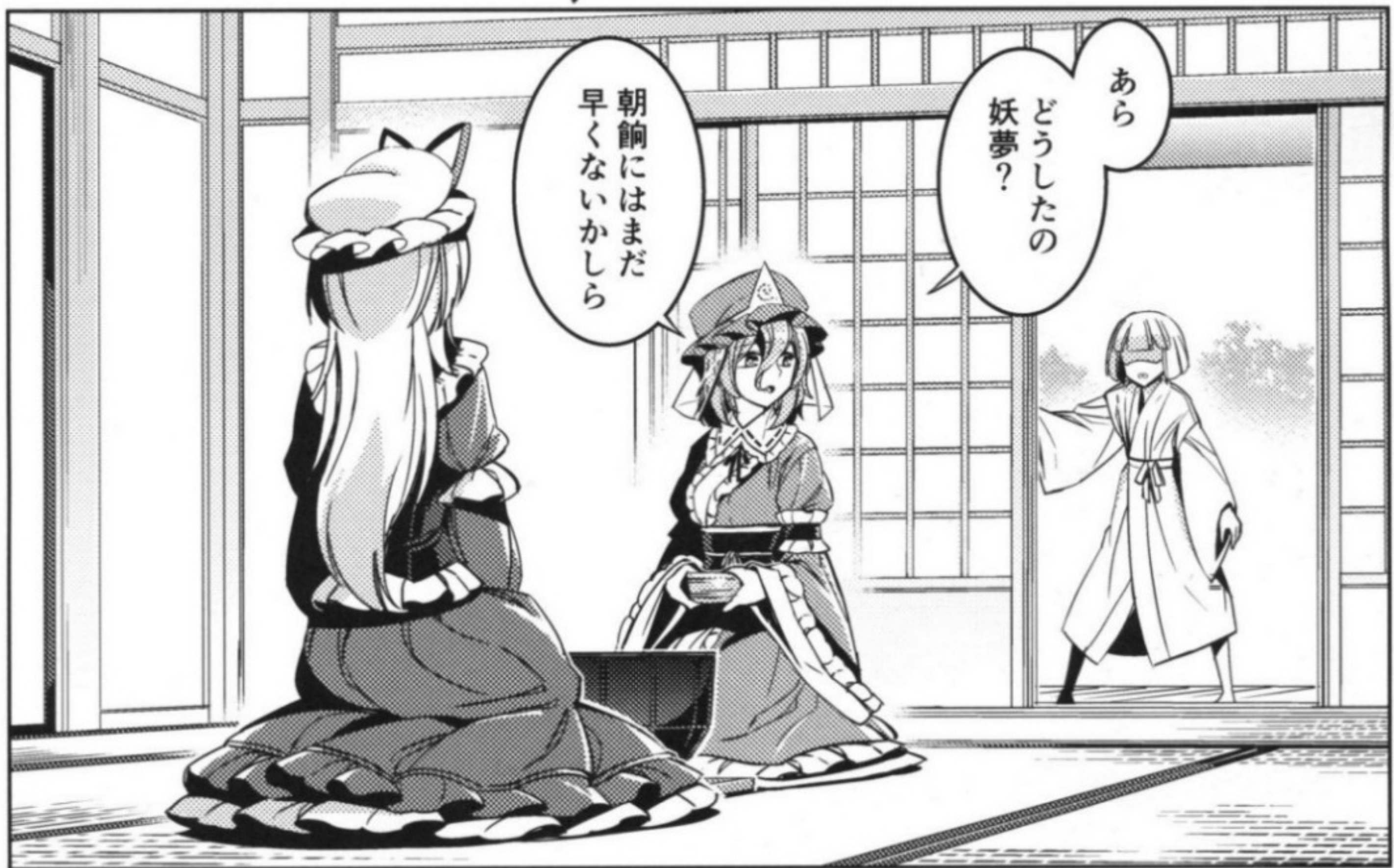
# シロガネエツ子

PRESENTED BY  
**Yakumi-Sarai**





幽々子様！



朝餉にはまだ  
早くないかしら

あら  
どうしたの  
妖夢？



お邪魔して  
いるわね

ええ



…紫様もいらして  
いたのですか



あ…  
いえ…その…

ホッ



それにしても  
貴女……

なんだか今日は  
寂しいわね……？



あら本当 半盞を  
どこにやったのかしら？

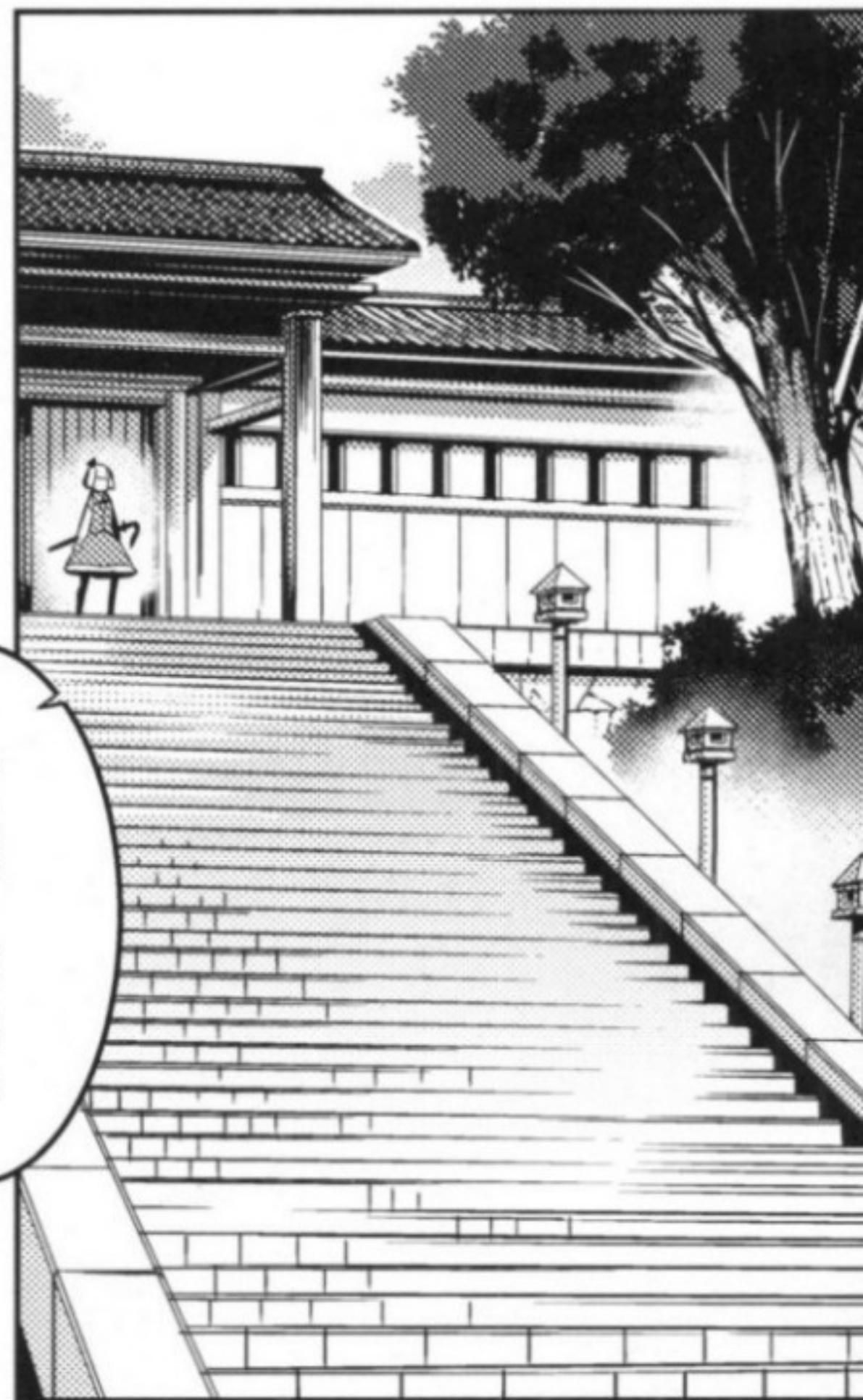
これじゃあ  
四分の一人前ね



……

幽々子様  
あの……





久しぶりだわあ

あの子が自分から  
休みをねだって  
外出なんて



.....



ズ

ズ

ズ



それに半分は  
無断欠勤に  
なるのかしら



あなたも  
少し休んだら  
どうかしら？

...それよりも  
幽々子  
朝早くから  
起こして  
しまったし

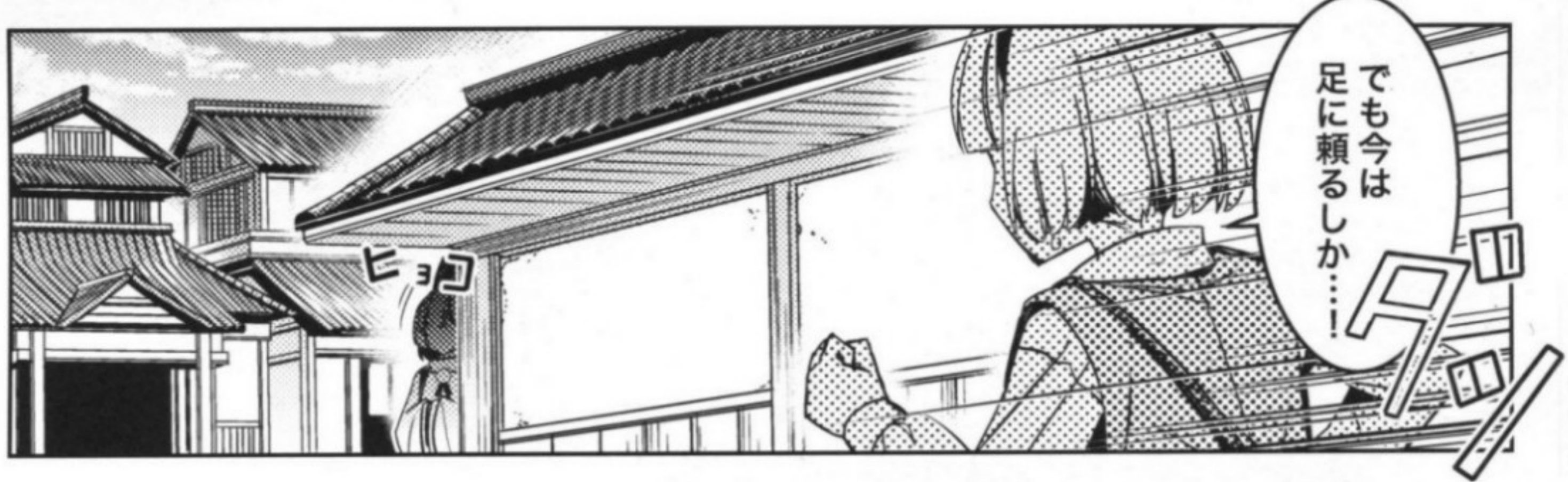




闇雲に走り回ったって  
半霊が見つかるわけ  
ないじゃない!

ああ、  
切羽詰まった時に  
体を動かして誤魔化すのは  
良くないって  
わかっているのに、

半分お化けの  
辻斬り娘だ



でも今は  
足に頼るしか……!



うおお!?



うわあああ!



イテテ…

すみません  
ちよつと焦って…

ギ  
ヤ  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア

ド  
ク

ド  
ク



すみません  
すみません！

まさかこんな  
重傷を負わせる  
なんて…！

ガク

ガク

いや…  
これは先程  
寺で負った傷が  
開いただけじゃ…



おお？

おぬしは  
あの時の半々剣士…

もうヒゲは  
やめたのか？

やめました…！

そうだ…



私はあるモノを  
知ったのだ



以前 この  
仙人達との一件で

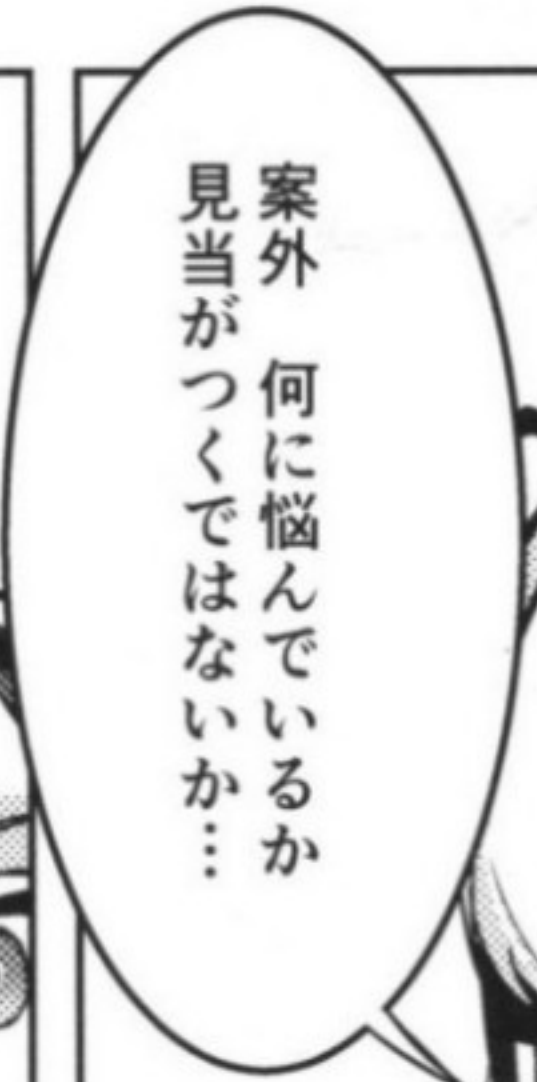
ギ

ク

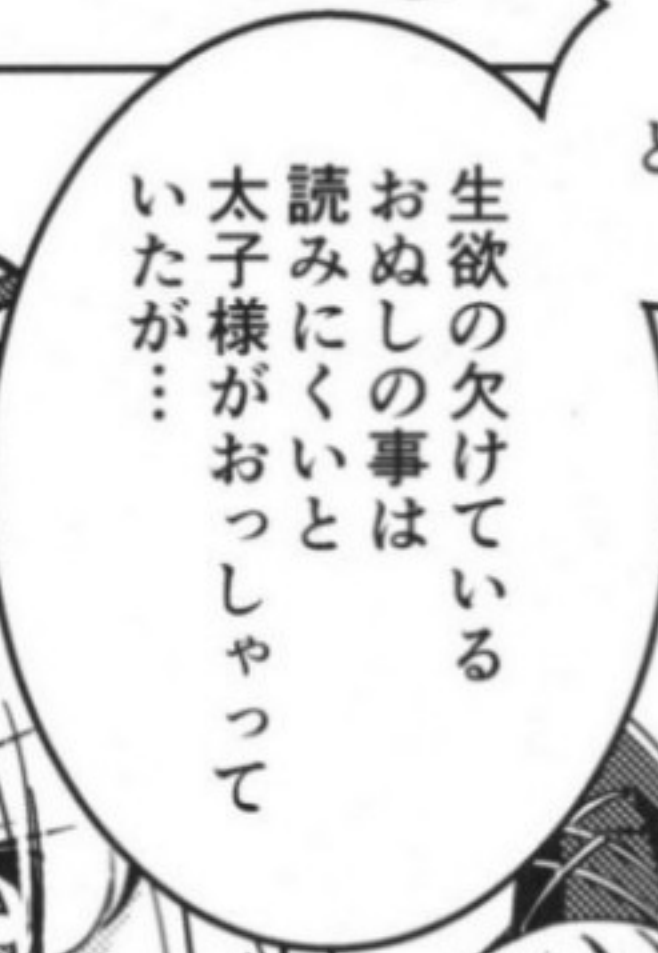
死欲



え………？



案外 何に悩んでいるか  
見当がつくではないか…



生欲の欠けている  
おぬしの事は  
読みにくいと  
太子様がおっしゃって  
いたが…

と







警告します

即刻この山から  
立ち去りなさい

そうすれば狼藉は  
不問とします









ふーん  
半霊がねえ…

というかアレって  
貴女の一部だと  
思っていたんだけど？

私もそう思って  
いたのですが…  
今朝気付いたら  
もう居なくて…



あったのね？

………！

なにか自分の中で  
仲違いでもあったのかしら？



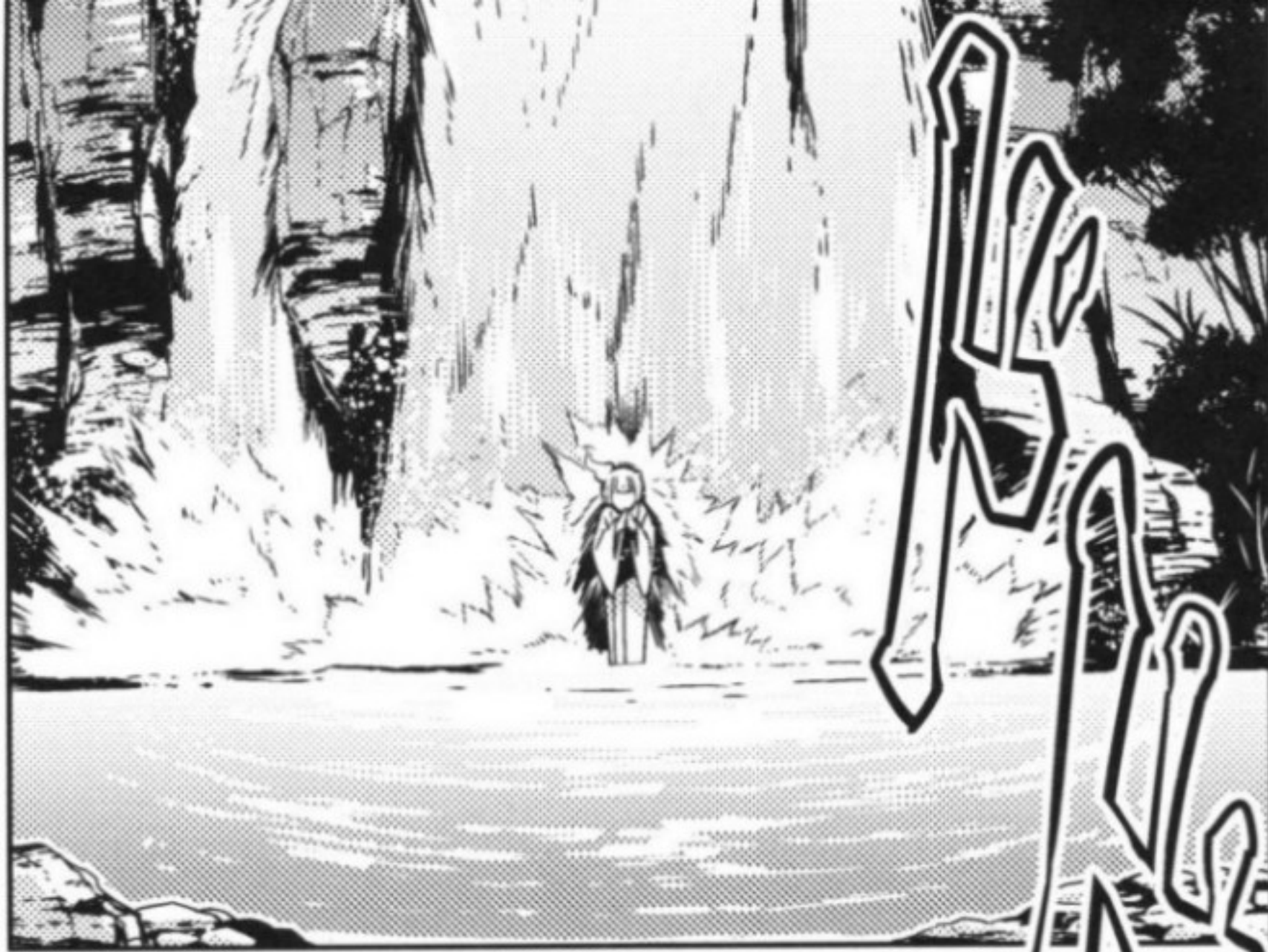
おかしな話ねえ



食えないやつね



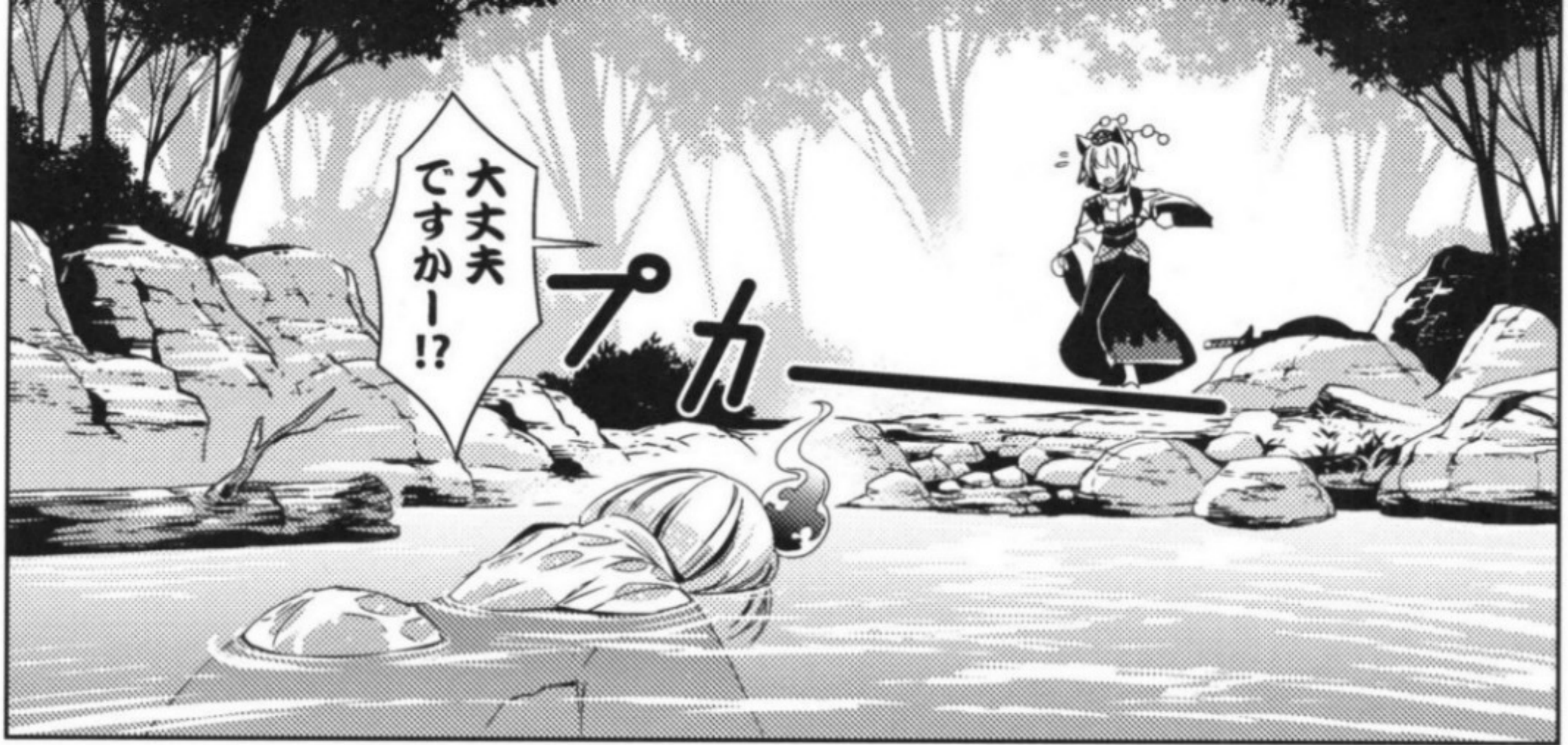
なるほど  
そっちが  
あの仙人が  
察した本題か



まさか滝行をするために  
わざわざこの山に来るとは…

しかしいくら  
霊体でもこの水庄は…

あ…



しかし滝行一つとはいえここまでするとは…

近頃は我々の中でも滝行を軽んじる者が多くて辟易していたところでした!



相当な迷いが  
お有りか

それとも大事に  
備えての清めか…



あるいは  
その両方か…



私の剣は

主の為に在ると  
思っていた

主の敵を

切って

斬って

斬り伏せる為に

しかし今  
私の主を  
苛むモノは…

# 死欲



だが 仙道に触れる事で  
私は知ってしまったのだ

そして  
亡霊たる  
私の主も気付いて  
いないのだろう

だから  
それに  
気付けなかった

人に生来備わって  
いるその欲は  
半人半霊たる私には  
存在しないらしい



濃密な死欲に

幽々子様自身  
から沸き立つ



もしも  
主が死を  
望んでいたら

もしも  
ですよ

貴女なら…

もし



望む通りに  
するわ

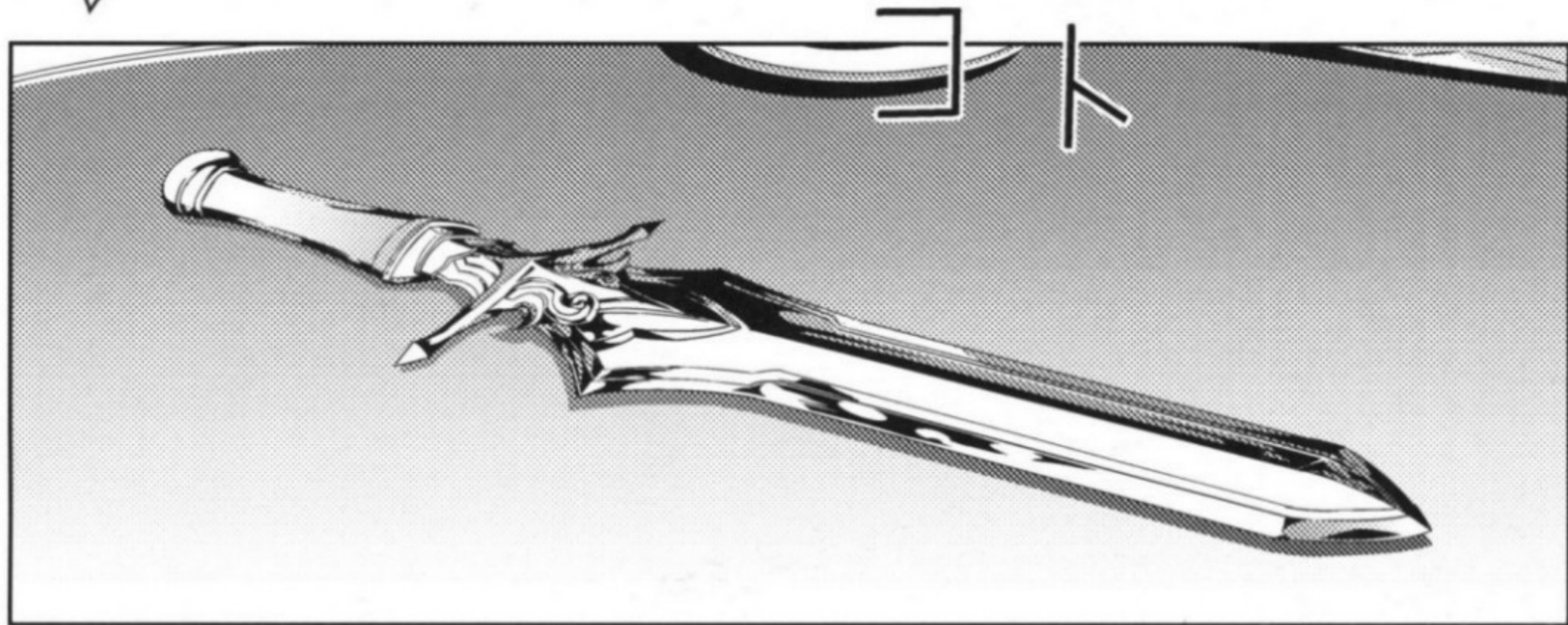
どうしますか



え…っ

あ…









迷いは…

無いのですか？

無いわ

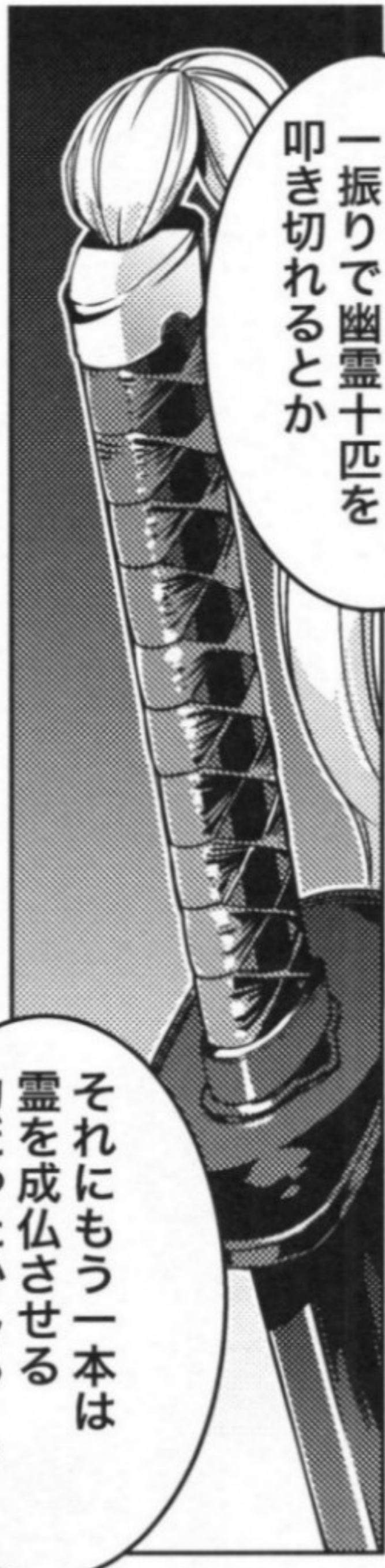
••  
全てのニーズに  
お応えするのが  
メイドの嗜みですわ

まあ あのお嬢様が  
それを望むなんて  
万に一つも  
無いだろうけどね



正にお譚え向き  
じゃない…？

それにもう一本は  
霊を成仏させる  
力だったかしら…？



たしかその刀は  
一振りて幽霊十匹を  
叩き切れるとか

でも貴女だって  
そうではなくて？





いえ…今の  
自分には特に…



剣を振るう  
理由…ですか



言うなれば これは  
私の牙ですから

獣は生まれ持った  
牙について  
とやかく考える  
ものではないでしょう



だけど…




私は今 天狗の社会の  
中で生きています

結果論ですが  
その中で生きるために  
役目をこなすために  
この剣を振るって  
いるのでしよう



…なんて

ちよつと格好つけて  
しまいましたね




だけど貴女には  
剣を振るうに足る  
意味や意義が  
あるのですね

私には今一  
わかりませんが

それはとても  
尊い事なので  
ないでしょうか

グ..


生と死は 対となつてこそ意味を成す



死を失つた生者は  
その存在をいびつに  
歪ませていた

ならば

生前の記憶を...



生を失つた  
亡霊は...



不死者を  
前にして漏らした

幽々子様の言葉



怖いわ 妖夢

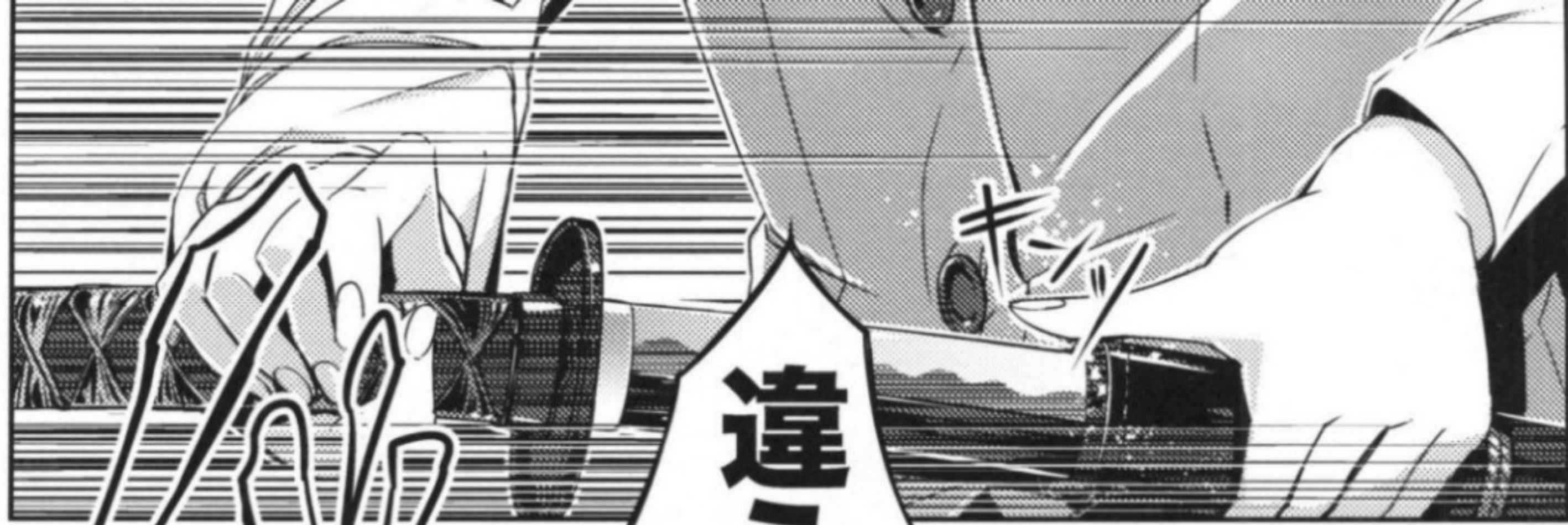


死を欲する亡霊…



あれはただ  
不死者に対してだけの  
言葉だったのだろうか

私の剣は 主のために



違う!!



そんな事の  
為になど……!

私は!

私の剣は







あとは 自分を  
納得させるだけね

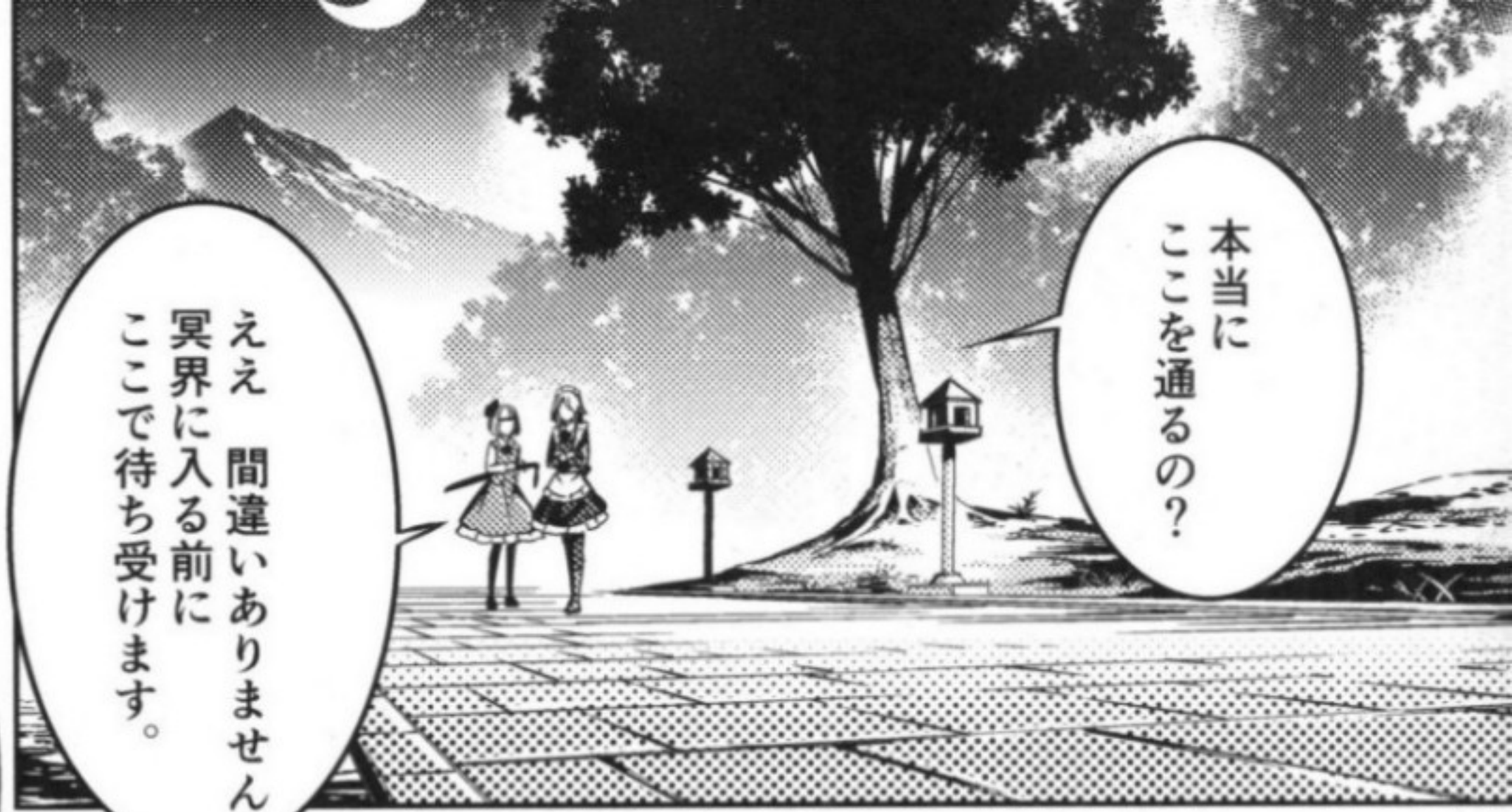








先ほどから  
感じ始めた  
この痛み…



本当に  
ここを通るの？

ええ 間違いありません  
冥界に入る前に  
ここで待ち受けます。



大丈夫  
わかるんですよ…

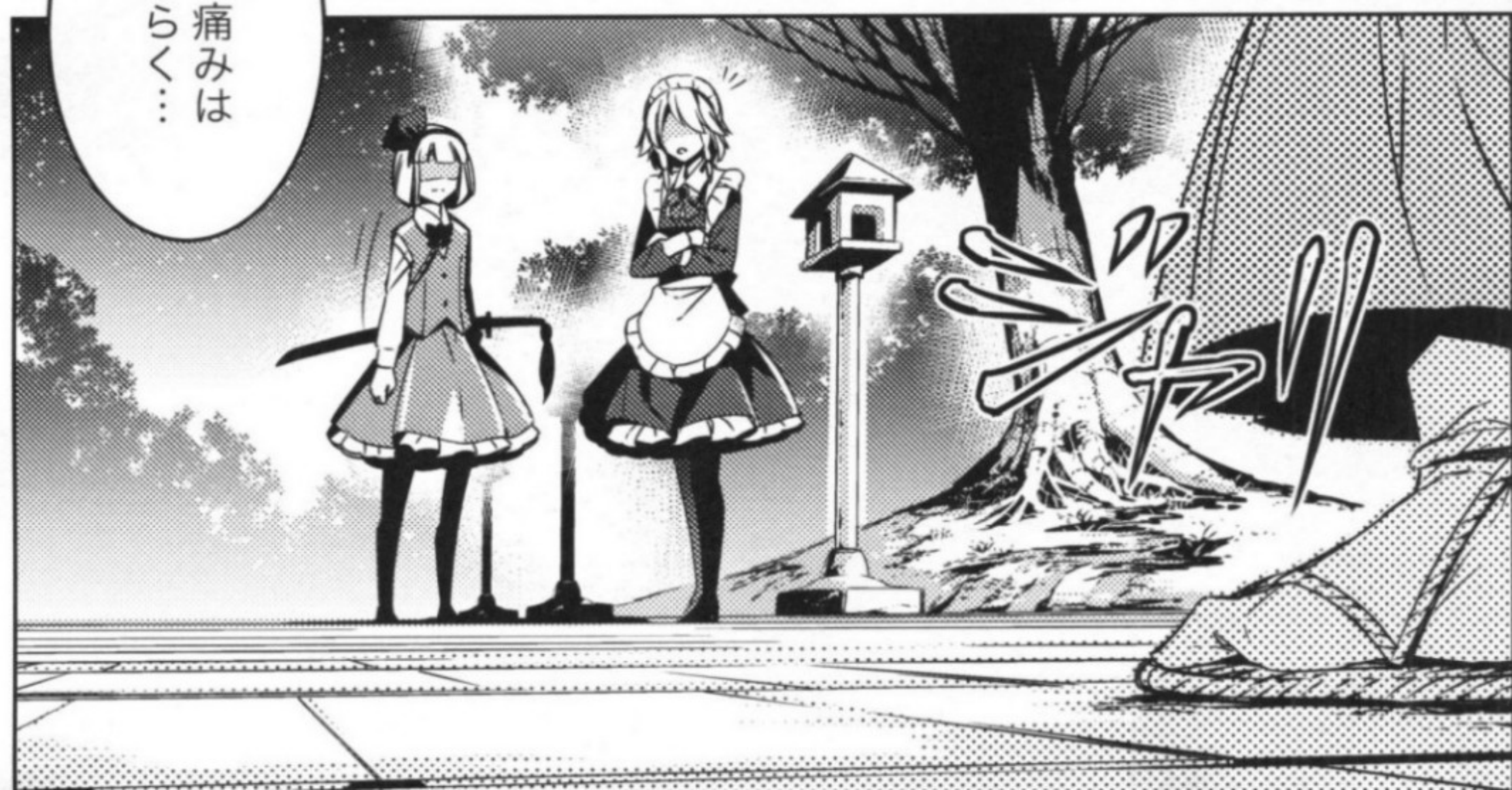


さっきまで必死に  
探し回っていたのに  
妙な自信ね…

…妖夢？

その痛みが  
近づいて来る  
のがわかる

この痛みは  
おそろく…





あら…  
あの白狼天狗…

咲夜さん

色々と  
ありがとうございました



あとには私自身で  
決着をつけます

手は出さないうくださいね





今ならわかる

半霊の行動は  
私の葛藤の  
一つの可能性だ

幽々子様の死欲を満たす為

主を苦しみから解放する為



だが そんなことは  
赦さない



白楼剣の  
力をもって

迷いも 苦しみも  
断ち切ろうというのだ



それがたとえ私の  
半身であろうとも

主に仇なすものを  
赦すわけにはいかない



どうも…  
おかしな所で  
出会いますね

あっちは貴女が  
面倒見ていたのね…

どうしたの  
その血？



彼女の血です  
これから主人に  
刃を向けるからと

陰腹を…



やっぱり……!



ちよつと

なんで止め  
なかつたのよ!

止められるなら  
止めましたよ

じゃあどつこつ……



私にもそんなものは  
理解できませんよ

彼女は武士では  
ないでしょう?



ゼッ

ゼッ

ゼッ

よく知ら  
ないけど



……何?


フジドロー……さし……?




それでも

止められ  
なかつたんですよ






剣の腕は同じ…




さらに向こうは  
手負いの筈なのに

こつも圧倒  
されてしまう…



そっか



腹とともに

自分の中の迷いも

断ち切ったのか…



速い……!



いや……私の  
剣が遅いのか?

迷いとは

こうも切っ先を  
鈍らせるのか……



迷って当然  
じゃないか

私はまだ半人前  
今は更にその半分だ

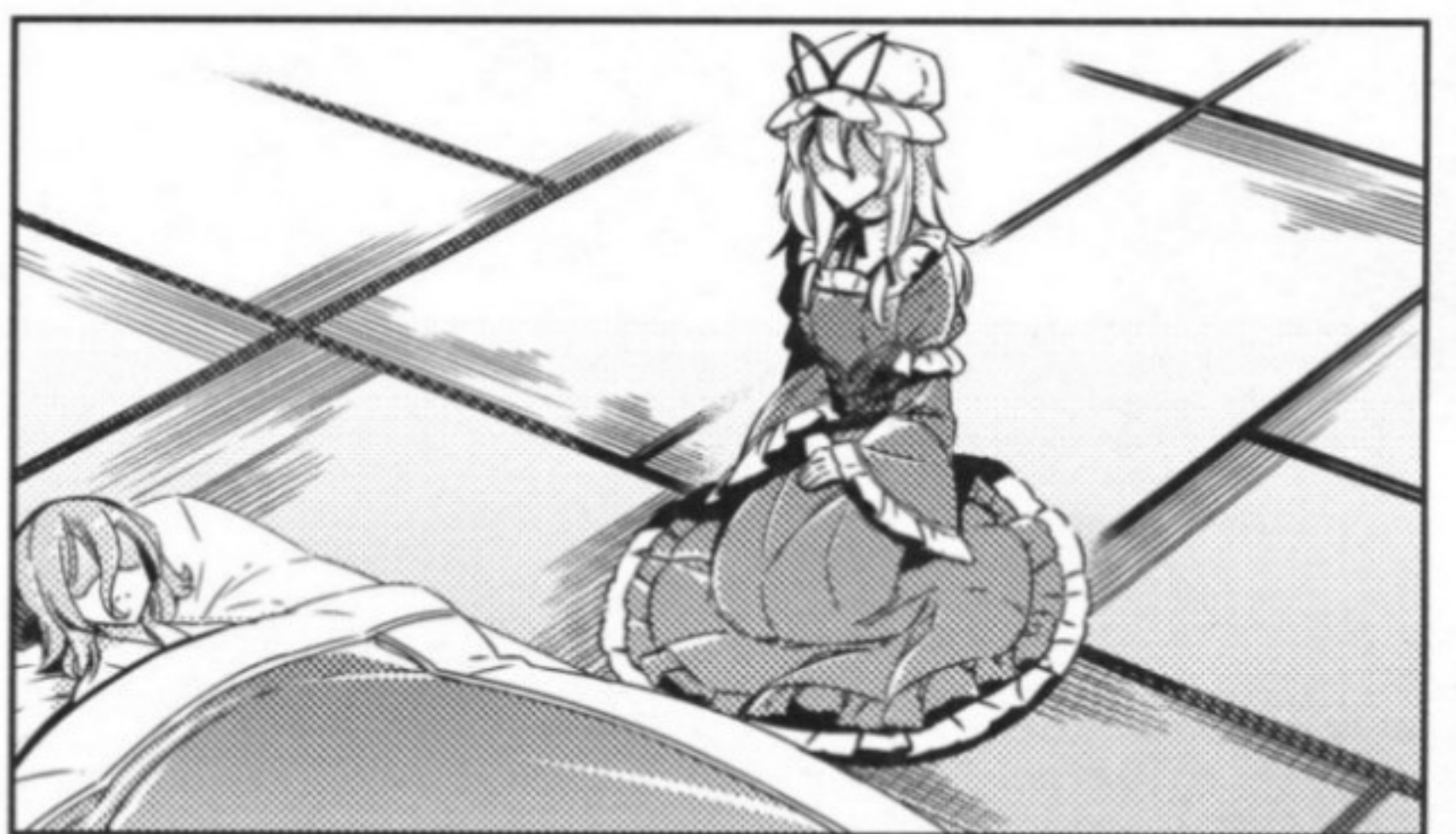
幽々子様の為に  
何が出来るのか

幽々子様が何を  
望んでいるのか

自分の事も  
主の事も

何もわかつちやいない







カッ

でも



!!

カッ

カッ

幽々子様  
に  
刃を向ける者を

見過ごす事だけは

断じて……!





お前は私の  
半霊だ

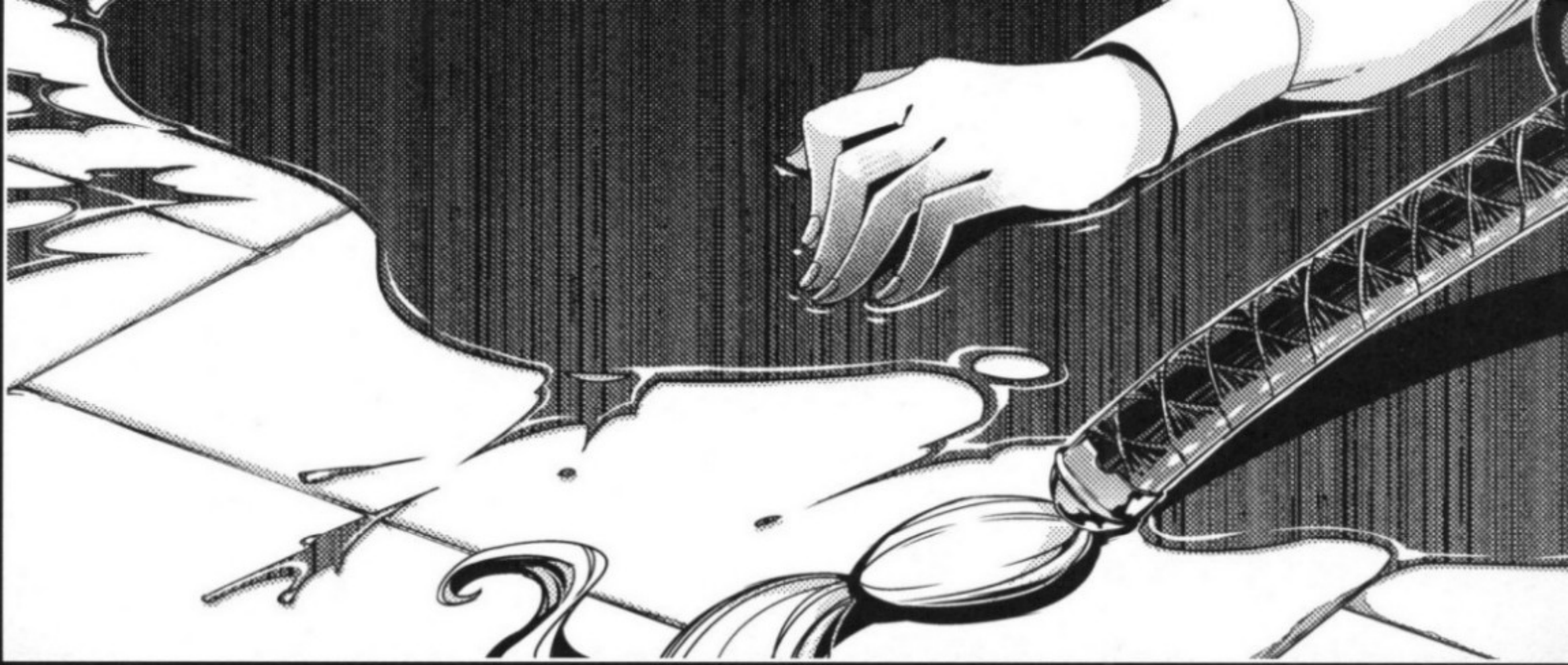
その分だけ

幽霊十匹分の刃は  
堪えるでしょう？



妖  
夢  
!!













目が覚めた？

メイドと天狗があなた達を  
運んでくれたのよ

酷い傷で 半人半霊  
じゃないかったら  
危なかったって…

そうですか…

それより…



聞いたわよ妖夢

自分で自分の事を  
刺したんですって？





嫌よ妖夢

そういうのは

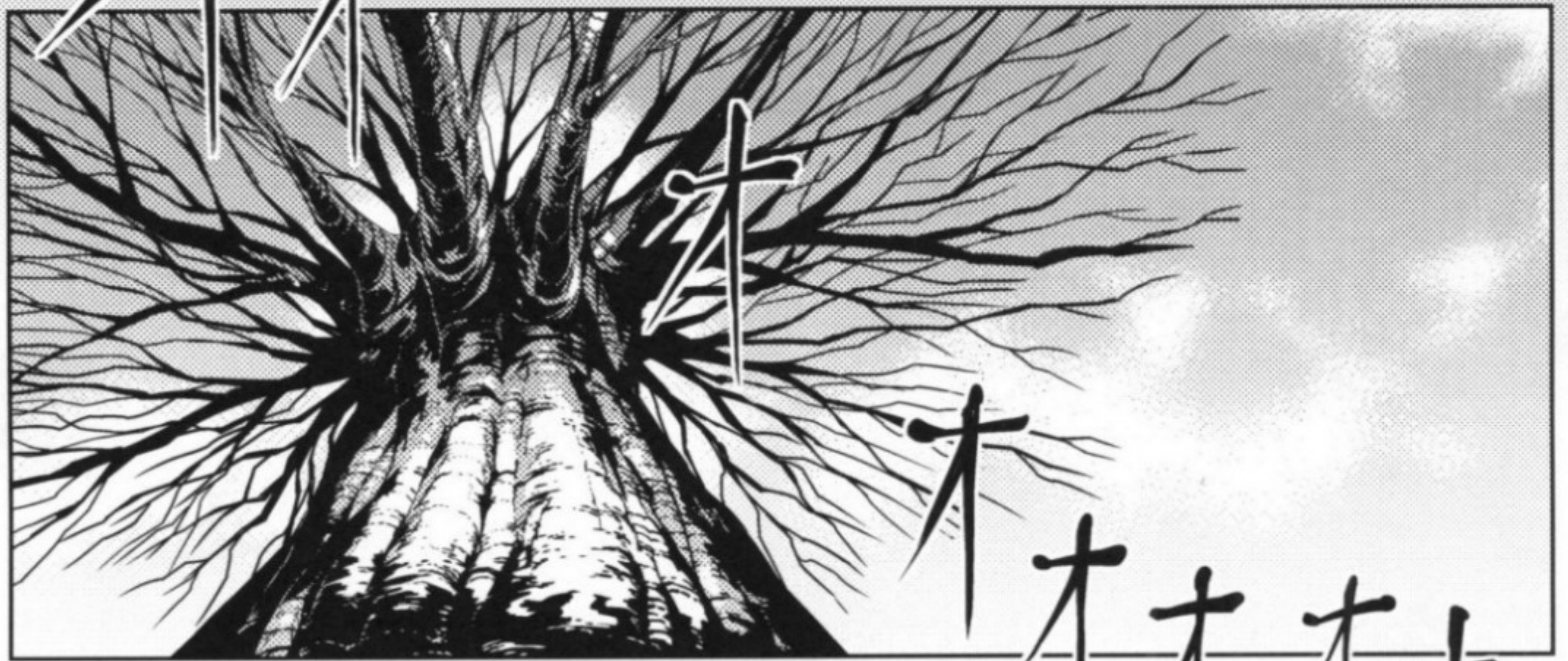
とても嫌よ…



すみません  
幽々子様

こんな事は

もう二度と  
しませんから





紫様  
やはり今回の件は  
この妖樹が…

ええ  
死欲の欠落を自覚した  
妖夢の心のスキマに  
滲み込んだのでしょ

でもあの子は  
ちゃんと自分自身で  
乗り越えられた…

幽々子も  
あの様を見れば

死への欲求を抑えて  
くれると思いたいけど…

しかし

なんとか妖夢自身が  
決着をつけましたが

もし彼女の片割れが  
幽々子様の前に  
現れていたら…

その時は

私が消していたわ

ズ

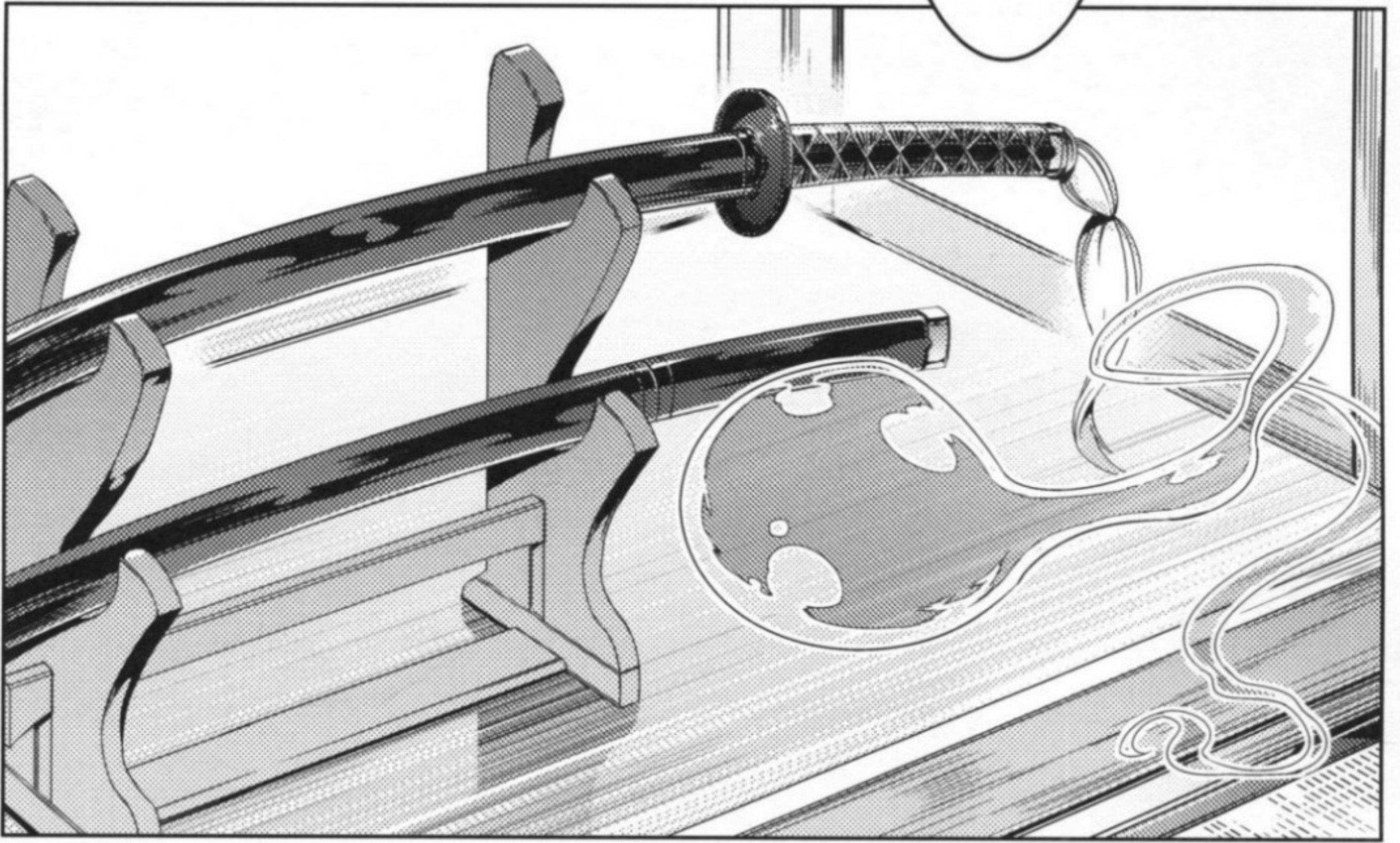
ズ

ズ



迷いが無い  
というのも

考えものだな…



—完—



## あとがき

19冊目になります。ゾウノセです。

妖夢は原作でも割と性格に変遷があり、二次創作でも描く人によって差異が出るキャラだと思います。自分の中では初期のとりあえず斬ってどうにかしようとする部分と永夜抄後半でのなんだかんだで幽々子に忠義を尽くすあたりが印象的です。

妖夢はよく半人前扱いされますが、それは未熟で何もできないというより未熟故に間違った方向でも突っ走ってしまう危うさなのではと思います。

(神霊廟のヒゲの件といい)

この本でも借り物っぽい忠義の思想(葉隠的な)が暴走した感じに描いてみました。

幽々子に関してはテーマの一部にもかかわらずほとんど触れずに終わってしまいました。

というか触れられないので不調のまま寝ていてもらいました。

東方キャラの中でも群を抜いて描くのが難しいんですよね。

底が見えないというか…。自分の手には負えないというか…。

でもいつかはちゃんと描いてみたいとは思っています。

しかし夏の総集編の書き下ろしから前作の竜殺、今作と

立て続けに紫が裏で何かやっている話になっていますね。

夏のはたまたまですが、それ以降は紺珠伝の魔理沙EDの影響な気がします。

しばらく出番がないから寝てたと思ってたら実は色々暗躍してたっぽいのは結構テンション上がりました。

ぶっちゃけ例大祭で描こうかと考えてる話でも同じポジションで出てきそうでちょっと頭を悩ませています。流石にここまで連続してしまうのは…。

ではでは、次は例大祭か…

もしくは3月の合同祭事で短い話を描こうかと思っています。

ともかくまたお会いできれば幸いです。





妖夢ちゃんと白狼天狗が  
妖怪の山の方から  
流れてきたんですけど…

咲夜さーん

あらあら

仲良くなったようで  
微笑ましいじゃない

東方Project Fanbook

# 奥付 シロガネエツヂ

2015年12月30日 コミックマーケット 89 発行

原作 上海アリス幻楽団 様

印刷 栄光印刷 様

サークル 薬味さらい  
著者 ゾウノセ

pixivID 2622803  
mail zounose@gmail.com  
twitter @zounose

<http://zounose.jugem.jp/>



TOUHOU PROJECT  
FAN BOOK

シロガネ  
エツヂ



PRESENTED BY  
**Yakumi-Sarai**

2015.12.30